

問題【国語】

次の動詞の意味を説明してみましょう。

- (1) キョドル (2) ググる (3) サボる

豆知識 雑学コラム

昔からあった「名詞＋る」動詞

例えば、名詞の「勉強」を動詞にするときには、「勉強」にサ行変格活用動詞の「する」をつけて、「勉強する」としますよね。このように名詞を動詞にする(＝動詞化する)場合、「名詞＋する」とすることが一般的です。しかし、最近生まれた新しい動詞は、「名詞＋る」で動詞化することも多いようです。今日は新しい動詞を見ていきましょう。

一つ目の「キョドル」は「挙動不審になる」を省略してできた動詞です。言葉の省略で生まれたと知るといかにも若者言葉だなという感じがしますね。同じように「告白する」ことを「コクる」、「拒否する」ことを「キョヒる」、「コピーをする」ことを「コピる」などもこうした省略によって生まれた動詞だといえることができます。こうした言葉の省略でできた動詞は中高生や大学生同士の会話ではよく使われていますが、親子やおじいさんと孫といった世代間の会話では通じないこともあるので注意しましょう。

二つ目の「ググる」は「グーグルなどの検索サイトで調べる」ことです。インターネットが普及した2000年代から使われ始めた新語ですね。他に、科学技術の発達に伴って生まれた動詞としては、「コンピュータのソフトが不具合を起こした」という意味の「バグる」や「twitterに書き込みをする」という意味の「ツ

イートする」があります。また、日本語だけでなく英語でも「グーグルなどの検索サイトで調べることを動詞で「google」と言います。この「google」という動詞は有名な英語辞書であるウェブスター英語辞典にも収録されていて、正式な英語として認識されてきています。そのうち、日本語の「ググる」も国語辞書に載る日が来るかもしれませんね。

さて、「～る」で動詞になる言葉は若者言葉が多いと聞く中には、日本語の乱れではないかや、誤用ではないかと考える方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、実は「～る」で動詞になるという規則性はこの数十年で始まったものではありません。「怠けて休む」ことを表す「サボる」はもともと「サボタージュをする」を省略して生まれた言葉です。この「サボる」という言葉は1929年に発表された小説「蟹工船」にも出てくる90年以上前からある言葉でしっかり辞書にも掲載されている言葉です。こうしてみると、「～る」で動詞になるという規則性は昔からあるれっきとした日本語のルールだと思えますよね。

時代の変化とともに新しい言葉が生まれていきます。新しい言葉に対して「キョドったり」、「キョヒったり」せずに、受け入れて自分の語彙を増やしていきたいものですね。

【解答】

アコトツク(1) 怠る (3)

アコトツク(2) グーグルなどの検索サイトで調べる (2)

アコトツク(1) 挙動不審になる (1)